

# 平安京左京六条一坊八町説明会資料

(下京区中堂寺命婦町、日本たばこ産業株式会社敷地内)

1986年11月 8日(土) (財)京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに 調査地は平安京左京六条一坊八町の西北隅に相当する。ここに日本たばこ産業株式会社の倉庫が増築されることになり、事前の発掘調査を実施する運びとなった。発掘調査は1986年10月 1日より開始した。調査面積は約1,000㎡である。

2 遺構と遺物 <層序> 調査地では近・現代の盛土層が厚く約1.2mある。この下に旧耕土層が約20cmあり、これを排除すると地山面となる。地山面は北西隅と南側に粘土層がみられる他は、すべて砂礫層である。

<遺構> 主要遺構として平安時代後期から室町時代初めにかけての井戸を7基(実際は10基分ある)検出した。これらは方形ないし円形の堀形をもち、中央に木枠を組むものが多いが、石組のもの(SE80)や曲物だけのもの(SE47)もある。年代は以下のとおりである。

12世紀: SE18A・B. SE43. SE100. SE104

13世紀: SE32A・B・C

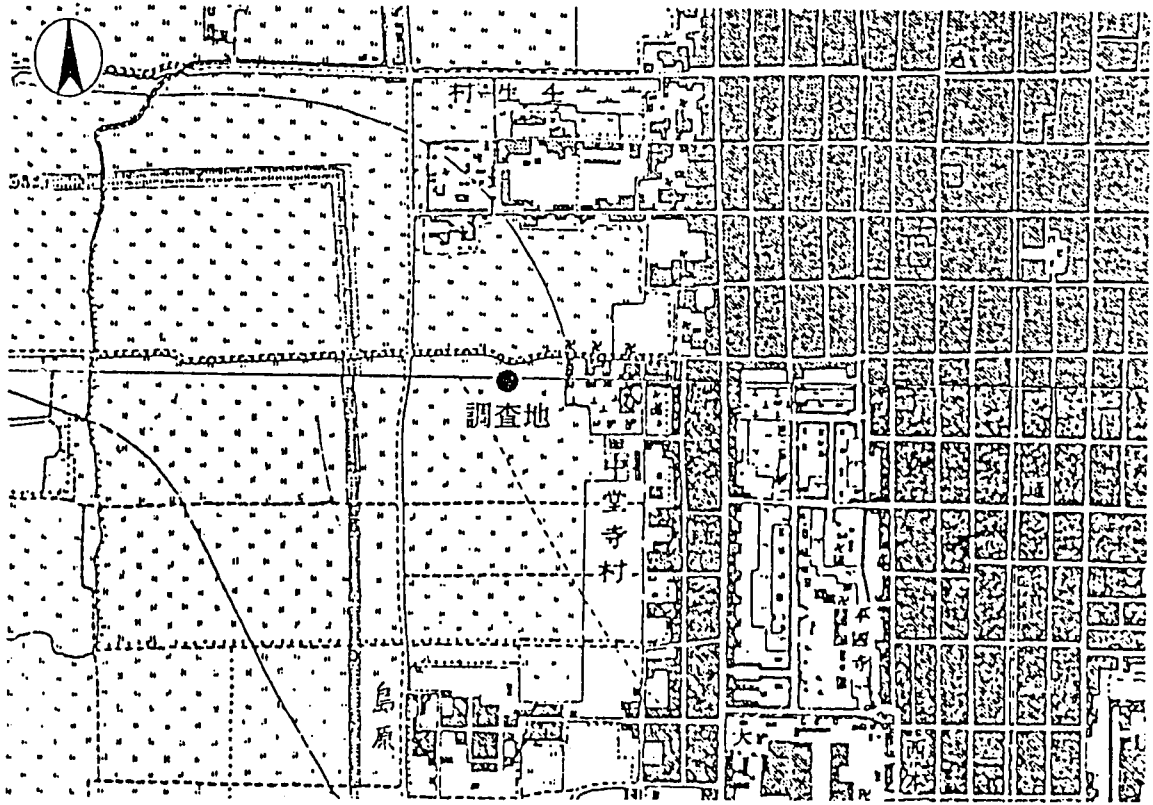
14世紀: SE47. SE80

この他、地山の黄色粘土層上面では、黄色粘土層を採取した際に掘られた「土取り穴」を多数検出した。これらは江戸時代に属すると考えられる。

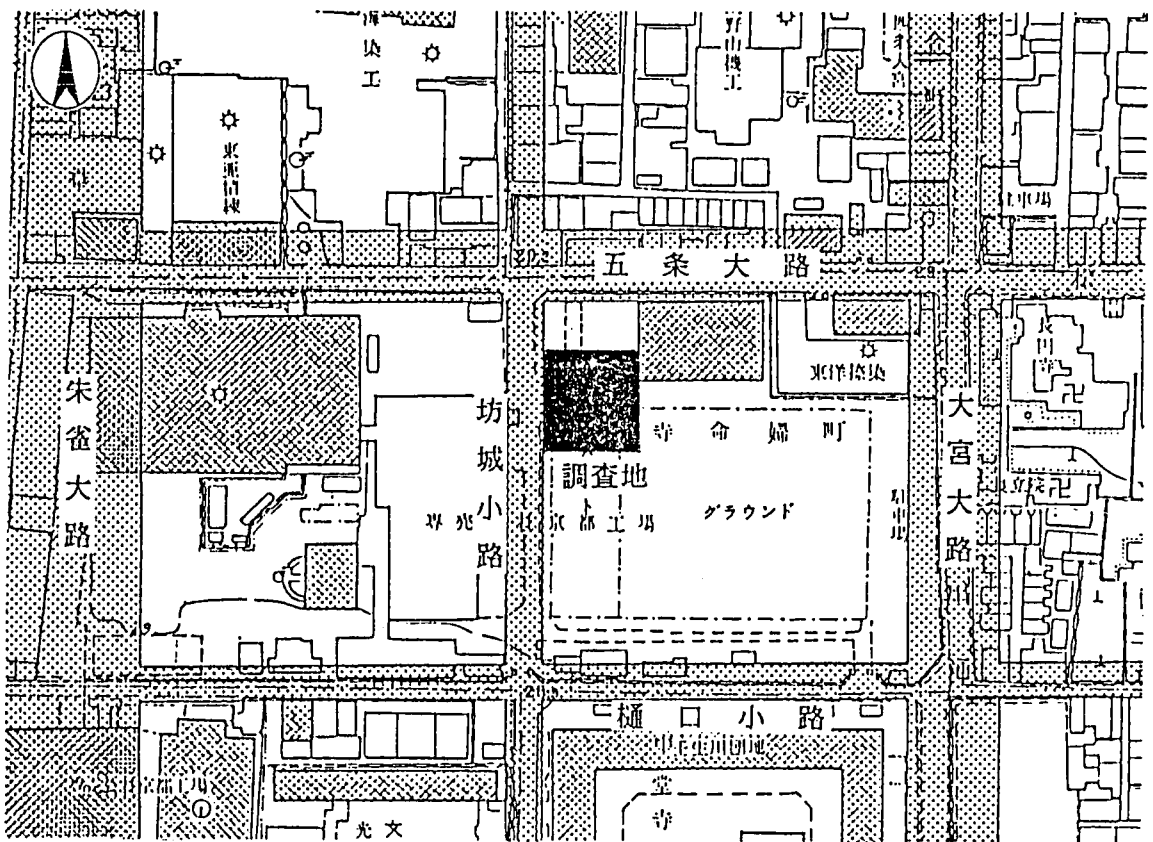
<遺物> 上記の各遺構からは、土師器(皿)、瓦器(椀・皿・羽釜・鍋・盤)、国産陶器(鉢・甕)、染付(椀・皿)、輸入陶磁器(椀・皿・壺・合子)等の土器類の他、瓦(軒平・丸・平)や硯等も出土している。

3 まとめ 調査地では井戸のみを検出したが、これに伴って存在したはずの建物柱穴や溝等の遺構はまったく検出できなかった。これは後世の削平が大きかったことが原因と考えられる。

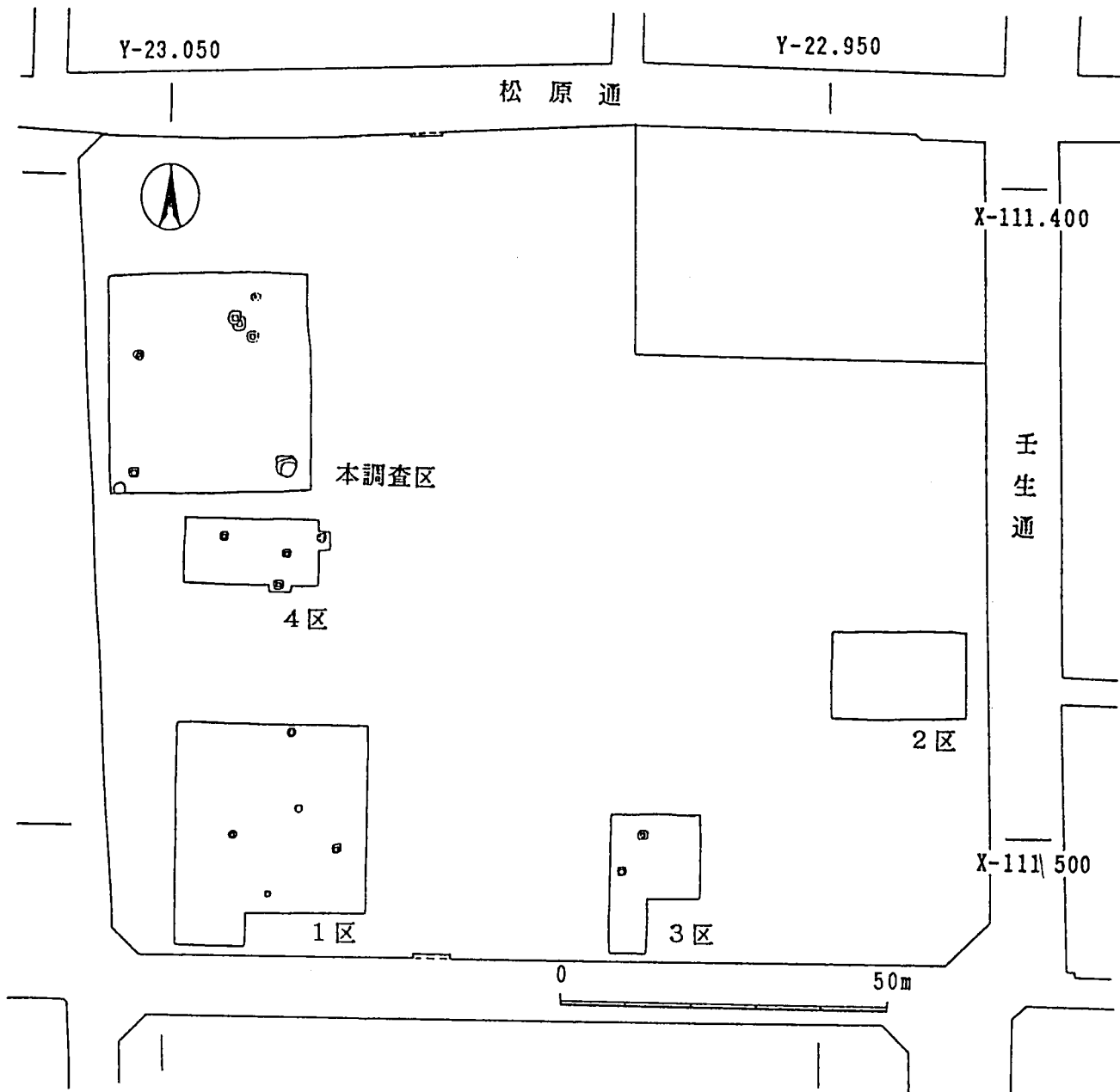
次に検出した井戸から、調査地は12世紀から14世紀にかけて居住地に利用されたことが明らかとなった。しかし、これに続く時期の遺構はみられず、このことから推察すると、調査地は早くも15世紀を境に居住地としての機能を失い、京都近郊の農村地帯として明治時代にまで存続した後、京都市街地の拡大に伴って住居・工場地帯となって今日に至ったことが想定できる。



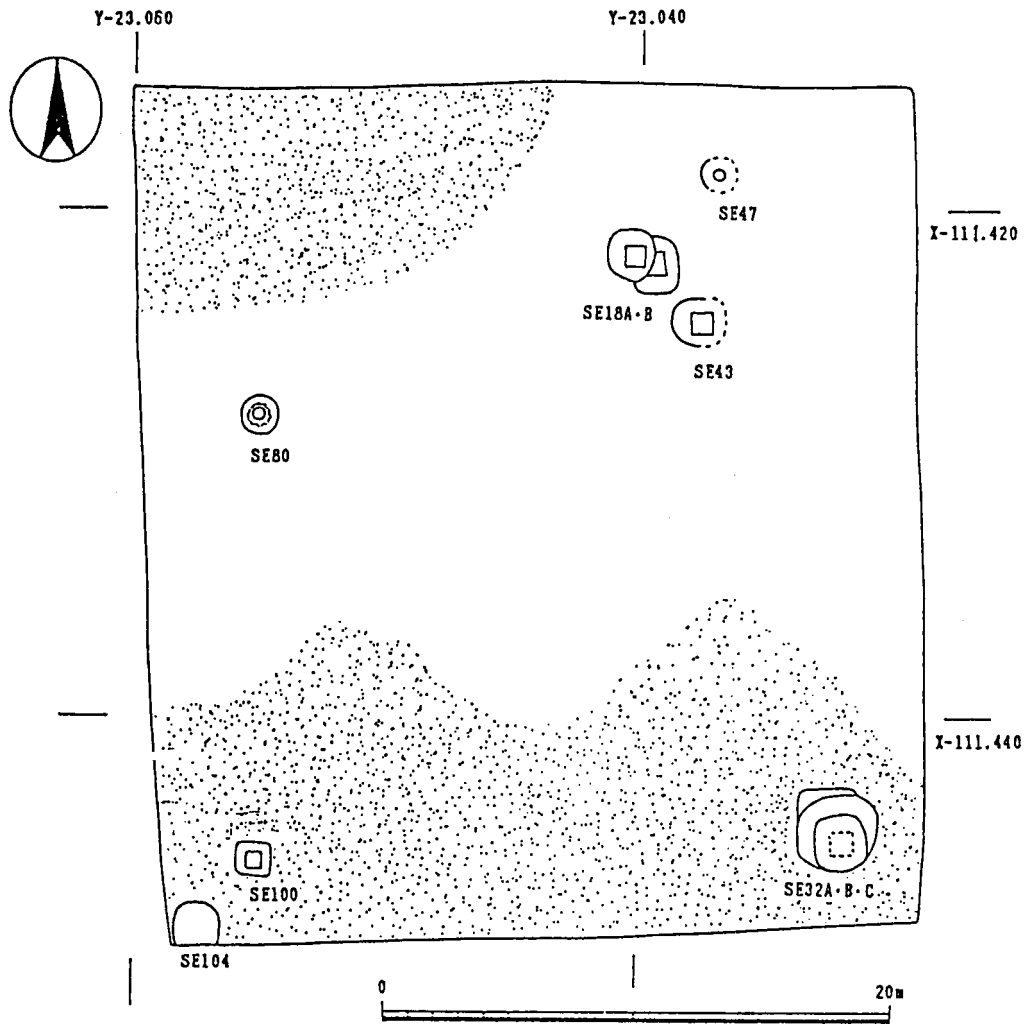
明治終り頃の調査地



平安京内での調査地の位置 (1 : 2,500)

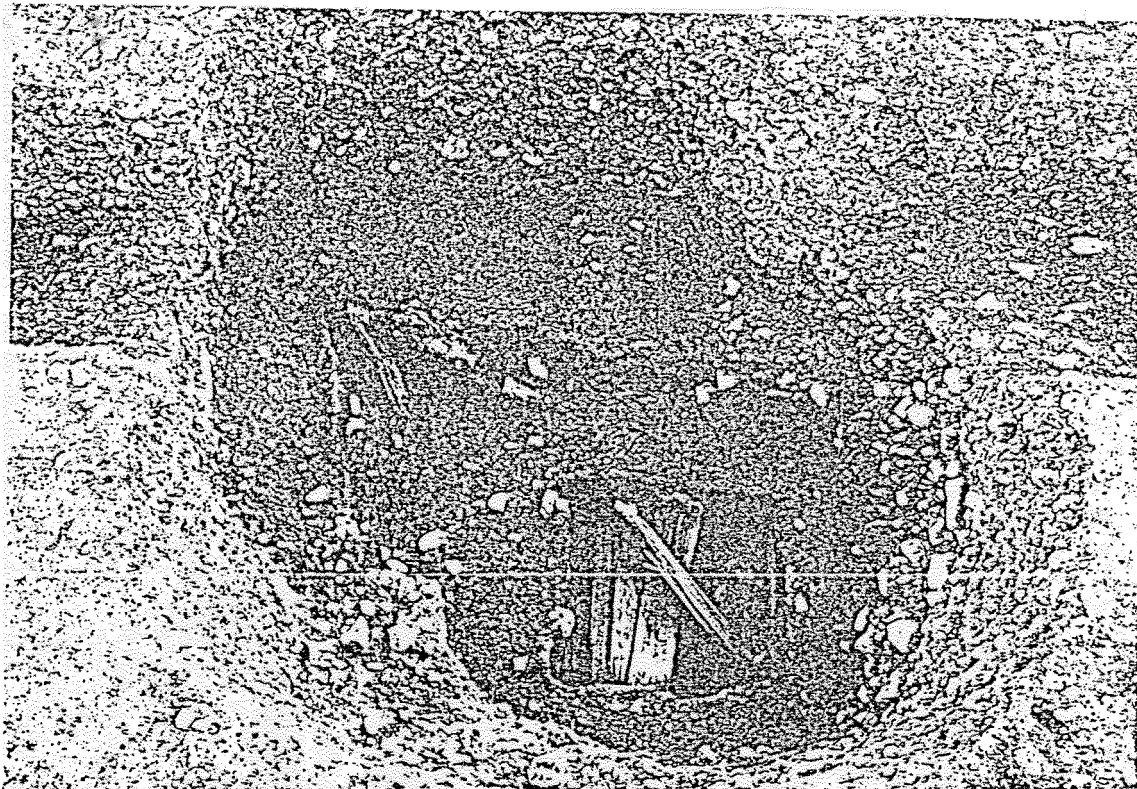


調査区遺構配置図（1～4区は昭和57年度調査）

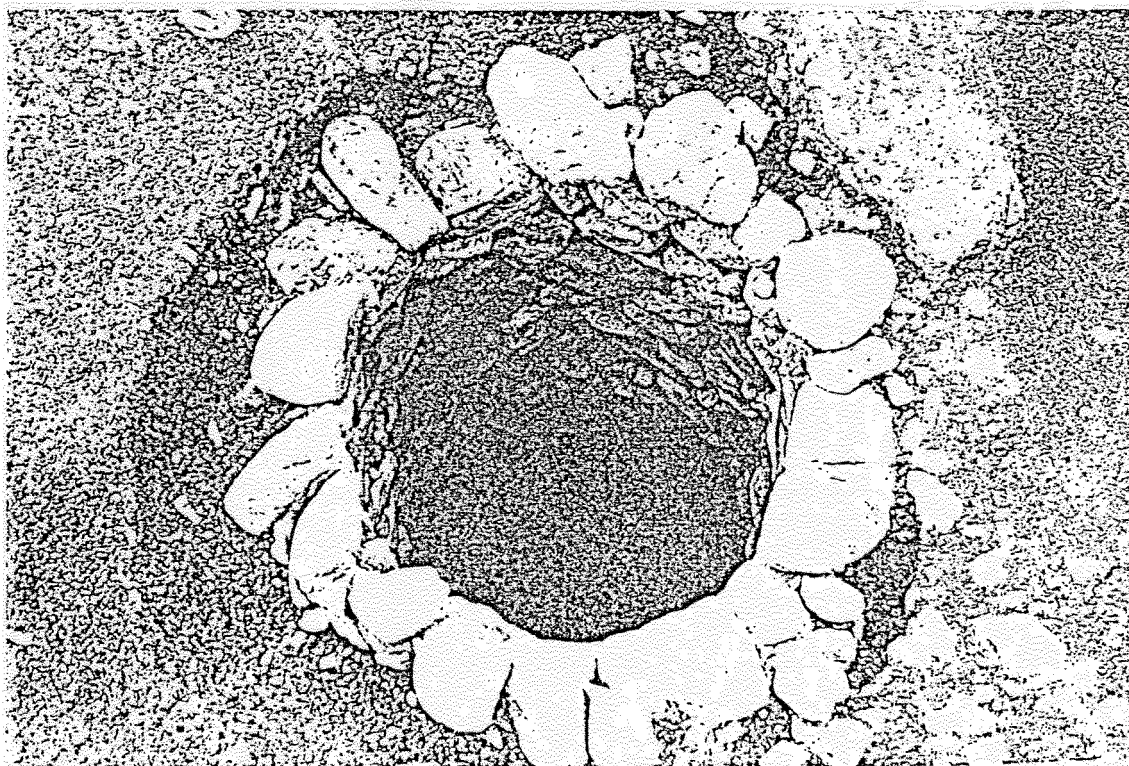


黄色粘土の分布範囲

遺構配置図 (1 : 150)



SE18A (右)・B (左) 全景 (北から)



SE30 全景 (東から)